



## 第10回インターナショナル サマージンポジウム(The Tenth International Summer Symposium) 開催

9月18日(火)に土木学会本部(東京)において、第10回インターナショナルサマージンポジウムが土木学会国際委員会(委員長…日下



写真1 葛 漢彬教授による基調講演

部治・東京工業大学教授)の主催で開催された。このシンポジウムは土木学会の国際活動の一環として、英語での研究成果の発表の機会を設けることにより、日本に滞在中の留学生・エンジニアを中心に、国際交流と相互理解を深める目的で企画されたものである。1999年から開催され、10回目となる今回は100名の参加者(外国人学生・エンジニア57名、日本人学生・エンジニア43名)を得て、7部門・60件の研究発表、2件の基調講演、スタディー・ツアー・グラント招聘者であるミカエル・ドイツ・ラント氏による報告、ならびに懇親会が行われた。また今回から論文の質を向上させることを目的として全文査読を実施した。



写真2 日下部委員長と優秀発表講演者の記念撮影

なお今回のシンポジウムは、公益信託「土木学会学術交流基金」の助成を受けて実施された。

シンポジウム当日は、午前・午後合わせて計14の一般講演セッションおよび基調講演が行われた。基調講演は、柴山知也・横浜国立大学教授による「Risk Management in Coastal Area - Protection against Tsunami and Storm Surge」と題する講演、続いて葛 漢彬・名城大学教授による「Inspection Activities on Damaged Bridges in Seismic Region of Wenchuan Earthquake」と題する講演が行われた。最近海外で発生した災害報告に関する、たいへん興味深い内容であり、日本で学ぶ将来を担う学生・エンジニアにとって有意義な講演であったと思われる。

一般講演での発表は、日本滞在中の留学生によるものがその多くを占めたが、海外からの参加者の講演も複数あり、参加者相互間の有意義な情報交換ができたとの声が聞かれた。

最後に参加者が一堂に会し懇親会が催され、そのなかで優秀発表講演者(受賞者は下記のとおり)に賞状と記念品が授与された。懇

親会での参加者間の活発な交流によって、シンポジウムの主目的である国際交流と相互理解はさらに促進された。

●優秀発表講演者13名(敬称略)

Tamura Hiroshi(横浜国立大学)

Md. Abdur Rahman Bhuiyan

(名古屋大学) / Suntoyo(東北大

学) / Nguyen Hoang Giang(埼

玉大学) / Laddu Indika Nalin De

Silva(東京大学) / Karunarathna

Anurudda Kumara(埼玉大学)

/ Sanjay Kumar Jha(埼玉大学)

/ LEE Jina(東京大学) / Ahmed

Ibrahim Mosa(東京大学) /

Matsumaga Takako(埼玉大学)

/ Dorji Cheki(横浜国立大学)

/ Dinh Van Hiep(埼玉大学) /

Sharif Moniruzzaman Shirazi

(埼玉大学)

(国際委員会 第10回サマージンポ

ジウム組織委員会委員長 山田

均(横浜国立大学)

## 平成20年度スタディー・ツ アー・グラント 報告

土木学会では学術交流基金を活用し、毎年海外協定学会の推薦を受け、土木技術者を日本に招聘している(スタディー・ツアー・グラ



写真 鹿島技術研究所の視察の様子

ント)。本年度は、9月9日から19日までの間、フリーピン土木学会の推薦により、ミカエル・ドイツ氏(32歳)をお招きした。ドイツ氏は、自国で建設会社を経営する施工分野を担当する若手の土木技術者である。わが国の建設産業の成立ちを習得すべく、各地を精力的に視察された。

日本滞在中は、9月10日から開催された土木学会全国大会に参加し、ラウンドテーブルミーティングなどの国際関係行事に出席された。また、明石海峡大橋、豊田アローズブリッジなどのわが国を代表する道路橋や鹿島技術研究所、都内の鉄道の地下化建設現場、アスファルトプラントなどを視察され、最後に、土木学会学術交流基金が支援するサマージンポジウムにて、日本での活動の結果得られた知

見、所見を発表していただきスタ  
ディー・ツアー・グラントを終えた。  
短い滞在期間であったが、わが  
国の建設産業のスケール、土木技  
術から大いに刺激を受け、自国の  
建設産業の発展に寄与することが  
期待される。今後、フィリピン土木  
学会とのさらなる連携の強化に  
つながることを願いたい。

池谷 毅  
（学術交流基金管理委員会幹事長）

## 「インフラ事業における民間 資金導入に関するシンポジ ウム」開催

本シンポジウムは、「建設マネジ  
メント委員会ファイナンス手法研  
究小委員会」（委員長・小澤一雅  
東京大学教授、2006～2008  
年度）で議論した成果に基づき、  
2008年10月3日（金）13時よ  
り、土木学会講堂にて行われた。  
当該委員会は、地方自治体のイン  
フラ事業における民間資金導入  
の必要性と可能性を検討し、個別  
の事業ごとにその特徴と課題を  
整理し、事業の運営や整備・更新  
などに必要な資金を民間から導  
入する手法を考えることを目的  
に活動を行ってきた。その成果は、



写真 開会挨拶

建設マネジメントシリーズ④「イン  
フラ事業における民間資金導入へ  
の挑戦」（土木学会）として報告書  
の形にまとめられている。

開会に先立ち、小澤一雅委員長  
より挨拶がなされ、続いて、報告書  
に基づき、矢代晴実委員より民間  
資金導入のニーズと可能性につい  
て、玉真俊彦委員より上下水道事  
業について、坂東弘委員よりまち  
づくり事業について、横塚雅実委  
員より道路事業について、網浦純  
委員より新交通事業についての報  
告と質疑が行われた。最後に、中  
村裕司副委員長より「『新たな  
公』とは？」と題した話題提供と  
閉会挨拶がなされた。

本シンポジウムは盛況で、改めて  
インフラ事業の運営、整備、更新に  
対する民間資金導入の関心の高

さをうかがえた。今後はこうした  
議論が土木学会内にとどまらず  
に、幅広い関係者、業界で行われ  
ることが必要であると強く感じた。  
最後に本シンポジウムの実施に  
あたり準備をいただいた土木学会  
研究事業課岡田氏、報告書作成に  
ご尽力いただいた土木学会出版事  
業課小野寺氏をはじめ、関係各位  
に謝意を表す。

（正会員 建設マネジメント委員会  
ファイナンス手法研究小委員会  
幹事長 保田敬一（ニューエック）

## 全国大会にて 初の保育サービスを提供

2008（平成20年）9月10日～12  
日の3日間、東北大学にて開催さ  
れた第63回年次学術講演会（土木  
学会全国大会）において、土木学会  
として初めての一時保育サービスが  
提供された。

本保育サービスは、参加予定者  
からの要望を受け、男女共同参画  
小委員会が全国大会委員会およ  
び東北支部に働きかけて実現した  
ものである。東北大学川内けやき  
保育園において、利用料金の7割は  
学会からの補助を受け、3割を保  
育依頼者に負担を求める形で実施

された。  
利用者が1名にとどまったのは、  
本サービスの実施が大会参加受付  
の終了後に決まったためである。大  
会参加申し込み時にサービス提供  
の準備ができていれば、より多くの  
参加者に利用していただけただけ  
でなく、保育のために参加を取り  
やめた会員の参加も促せたものと  
考えている。

男女共同参画小委員会では、今  
後、来年度以降の全国大会をはい  
めとする各支部大会などにおい  
て、一時保育サービスが提供され  
るよう、またサービスの提供が大  
会概要発表の時点で告知される  
よう、関係各署に働きかけていく  
予定である。ご理解とご協力をい  
ただきたい。

本保育サービスを要望してく  
ださった参加者、実現に向けてご  
尽力くださった関係各位に心よ  
り御礼申し上げます。

（正会員 男女共同参画小委員会  
委員長 岡村美好（山梨大学）

## 栢原会長を迎えた研究討 論会「ダイバーシティ・マネ ジメントを土木業界からは じめよう！」を開催

教育企画・人材育成委員会 男  
女共同参画小委員会では、第63回  
年次学術講演会（土木学会全国大  
会）において「ダイバーシティ・マネジ  
メントを土木業界からはじめよ  
う！」と題する研究討論会を開催  
した。

「ダイバーシティ・マネジメント」と  
は、性別、人種、年齢、障害の有無、  
国籍、職務、ライフスタイルなど、  
おのおの多様性を尊重しながら、  
組織の目的を達成するための  
管理手法のこと。小委員会では、  
「男女共同参画」を、この「多様性」  
への対応「ダイバーシティ・マネジメ



写真1 真摯な意見交換風景（撮影：男女共同参画小委員会）



写真2 活発な論議 (撮影:男女共同参画小委員会)

席上、栢原会長からは「土木学会がどう取り組んでいくべきか、検討する必要性を認識した」ことが述べられ、「技術力」や「上司の意識

ント」の一部としてとらえ、土木業界における多様性のあり方、活用方法に焦点を置き、討論会を企画した。  
当日は、まず基調講演として、ダイバーシティ・マネジメントの第一人者である雨宮弘子氏(東京電力(株)より)「いまなぜダイバーシティ推進が必要なのか」東京電力の事例から」と題した、土木業界には実に刺激的なお話をいただいた。その後、雨宮氏と栢原英郎土木学会会長をパネリストに迎え、土木学会におけるダイバーシティ・マネジメントの必要性、可能性などをテーマに、パネルディスカッションを行った。

改革」をキーワードに活発な意見交換が行われたことは、メディア(日刊建設工業新聞)にも取り上げられたところである。

ご登壇くださった雨宮氏、栢原会長をはじめとして、当日の活発な討議にご参加くださったフロアの皆様に心から御礼を申し上げます。なお、討論の詳細などについては、当小委員会のサイト(<http://www.jsce.or.jp/committee/education/gender/touronkai-PR.shtml>)をご覧ください。  
(正会員 男女共同参画小委員会 幹事 松本香澄(東京都))

## 土木学会の本



### 建設マネジメントシリーズ04 インフラ事業における民間資金導入への挑戦

地方自治体にとって、不足するインフラを整備するだけでなく、これまでに整備されたインフラの維持管理や更新のための費用をどのように捻出するかは喫緊の課題です。財政状況が厳しいなかで、公共サービスを提供するインフラの管理運営が持続的に可能となるシステムを確立するためには、民間資金の活用を考える必要があります。建設マネジメント委員会ファイナンス手法研究小委員会では、多様な資金調達手法に関する調査や上下水道、まちづくり、道路、新交通の各事業における財政上・管理運営上の課題と将来の民間資金導入の可能性についての調査研究を実施してきました。本書は、これらの成果を取りまとめたものであり、地方自治体が抱える課題解決に活かしていただければ幸いです。

■編集:建設マネジメント委員会 ファイナンス手法研究小委員会(委員長:東京大学・小澤一雅)  
■2008年10月発行、A4判、246ページ、並製本  
■定価:3,360円(本体3,200円+税)→会員特価:3,030円 ■送料:470円  
ISBN 978-4-8106-0674-4

注文・  
問合せ先

(社) 土木学会 出版事業課 書籍販売係  
TEL 03-3355-3445/FAX 04-2946-0969

■Web注文 <http://www.jsce.or.jp/publication/>  
■FAX注文 学会誌織込み「図書注文書」をご使用ください

丸善(株) 出版事業部  
TEL 03-3272-0521/FAX 03-3272-0693